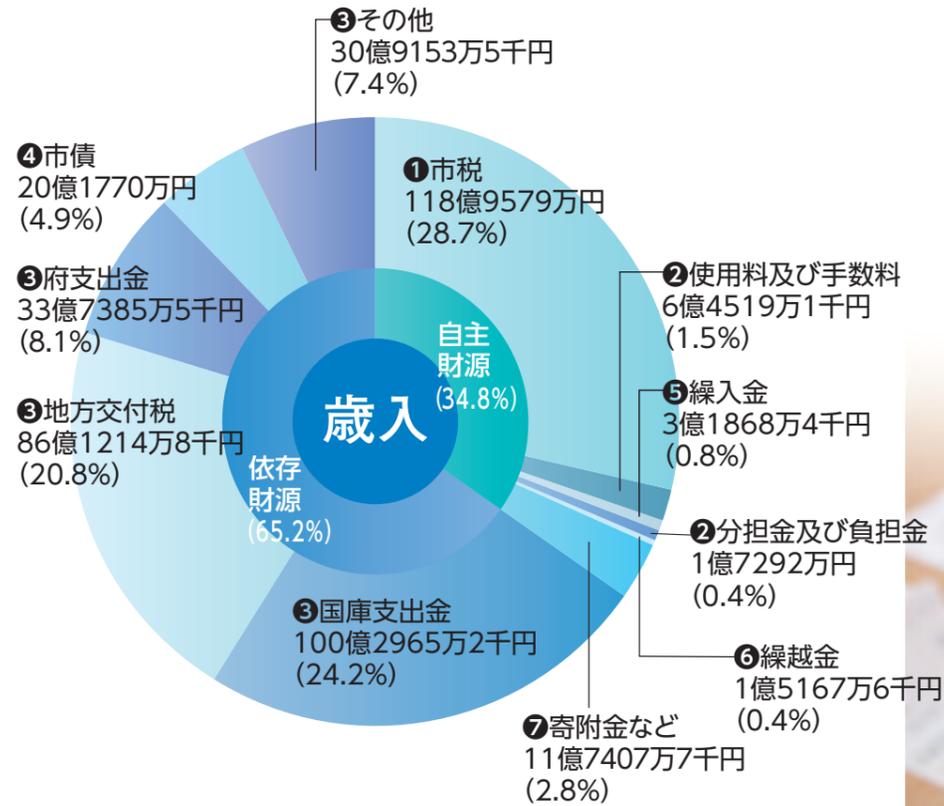


歳入 414億8,322万8千円



どれくらいの割合かを表す指標を「経常収支比率」といいますが、前年度から1.6ポイント悪化し、95.3%となりましたが、府内都市平均95.7%を0.4ポイント下回っております。

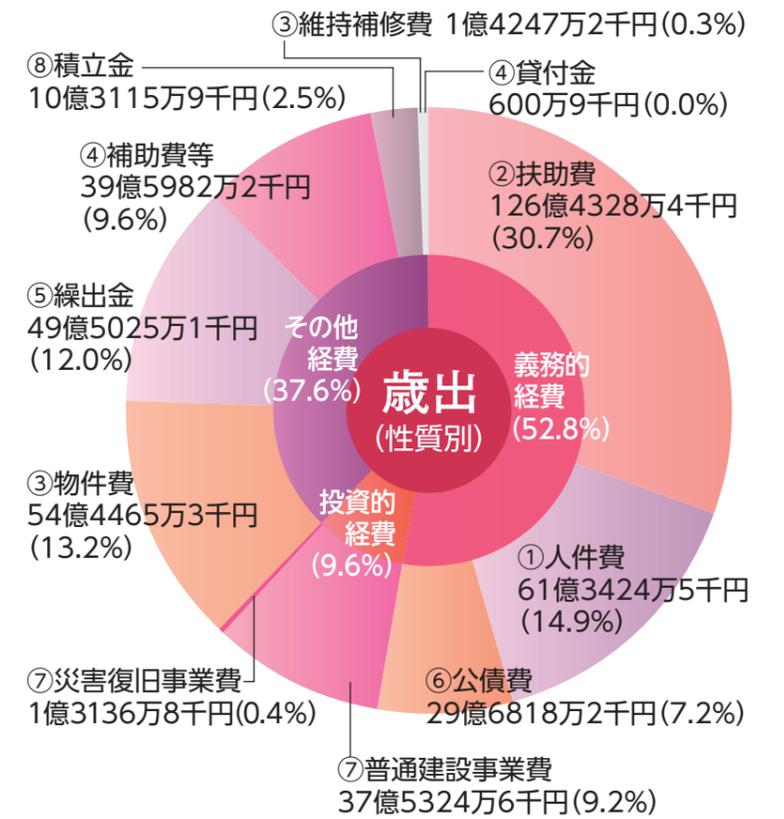
そこで、市民みなさんの税金などがどのように使われたのか、令和5年度一般会計の財政状況を月収30万円の家庭の家計簿に例えてお知らせします。

問い合わせ 財政課

令和5年度の決算が市議会で認定されました。翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質的な収支は2億4321万6千円で、黒字決算となりました。経常的な支出が経常的に入るお金に対して

令和5年度の決算報告

歳出 411億6,469万1千円



●基金・市債の状況(令和5年度末) (単位:千円)

種類	金額	主な使い道
基金	16,944,450	
財政調整基金	2,679,580	財源不足への対応
普通建設事業基金	1,268,943	一般建設事業
減債基金	3,466,602	借金の返済
その他特定目的基金	9,351,739	公共施設維持改修基金など
水道事業基金	177,586	用地取得・施設整備など
市債	50,321,051	
臨時財政対策債等	15,466,488	財源不足への対応など
通常の建設地方債	11,093,728	公共事業等債など
水道事業債	4,147,640	建設改良事業費
下水道事業債	19,613,195	建設改良事業費など

※市民1人当たりの基金の額は171,527円、市債の額は509,395円です(令和6年3月31日現在の人口:98,786人)。



財政状況の見える化について
ホームページでも、わかりやすく「見える化」し、公表しています。



月収が30万円の 家計簿に例えると…

- 市税① 市民税や固定資産税など
- 使用料、手数料など② 施設使用料や住民票交付手数料など
- 国庫・府支出金など③ 国や府から給付されるお金など
- 市債④ 金融機関などから借り入れたお金
- 繰入金⑤ 貯金を取り崩したお金など
- 繰越金⑥ 前年度から繰り越されたお金
- 寄附金など⑦ 財産の売り払いや寄附金など

収入	
①給与収入	86,000円
②アルバイト収入	5,900円
③親族からの支援	181,600円
④金融機関からの借入	14,600円
⑤貯金の取り崩し	2,300円
⑥前月からの繰越金	1,100円
⑦雑収入	8,500円
	—
収入合計	A 300,000円

支出	
①食費	44,400円
②医療費・教育費	91,400円
③光熱水費・日用品・修理	40,400円
④自治会などの会費	28,700円
⑤子どもへの仕送り	35,800円
⑥ローンの返済	21,500円
⑦家や車の購入	28,100円
⑧貯金	7,500円
	—
支出合計	B 297,800円

残ったお金 A - B = 2,200円

貯金残高 1,470,500円
ローン残高 4,367,000円

※家計簿内の番号は円グラフの番号と対比しており、同じ比率で家計簿の数値を算出しています。

※貯金残高、ローン残高については、年収360万円とした場合

- ①人件費 職員の給料や議員報酬
- ②扶助費 生活保護費や児童手当など福祉に使うお金
- ③物件費など 物品・原材料購入費や修理代など
- ④補助費など 各種団体に交付する補助金や貸付金
- ⑤繰出金 特別会計に対して支払うお金
- ⑥公債費 市債の元金や利子の支払金など
- ⑦普通建設事業費など 道路や学校などの建設や改修など
- ⑧積立金 貯金に積み立てるお金

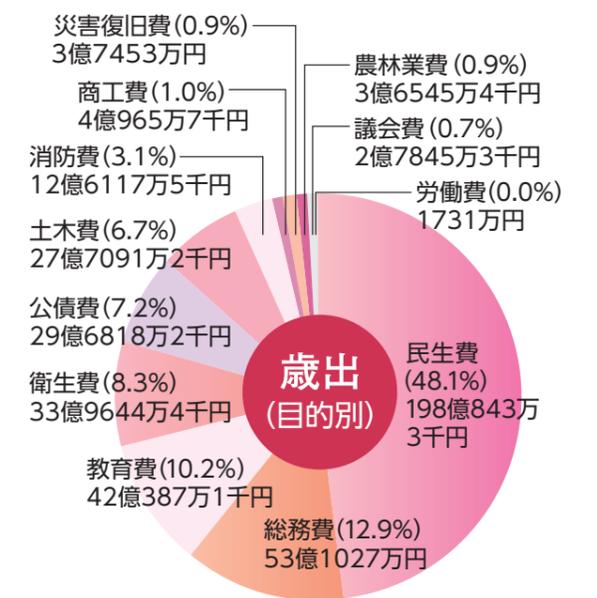


表1 一般会計の執行状況

(単位:千円、%)

費目	予算現額	収入済額(執行率)	費目	予算現額	支出済額(執行率)
歳入	44,507,268	19,217,802(43.2)	歳出	44,507,268	16,894,784(38.0)
市税	11,302,577	6,831,273(60.4)	民生費	21,393,683	9,237,252(43.2)
国庫支出金	9,838,010	2,627,511(26.7)	総務費	5,716,543	1,423,024(24.9)
地方交付税	8,570,024	6,233,167(72.7)	教育費	4,645,487	1,394,318(30.0)
府支出金	3,542,340	311,142(8.8)	衛生費	3,806,114	1,200,021(31.5)
市債	2,867,800	0(0.0)	土木費	3,204,430	1,118,393(34.9)
繰入金	1,887,824	53,873(2.9)	公債費	2,793,018	1,280,894(45.9)
使用料及び手数料	667,133	218,453(32.7)	消防費	1,475,700	688,055(46.6)
分担金及び負担金	267,073	70,142(26.3)	農林業費	446,839	127,613(28.6)
その他	5,564,487	2,872,241(51.6)	その他	1,025,454	425,214(41.5)

表2 特別会計の執行状況

(単位:千円、%)

会計名	歳入		歳出	
	予算現額	収入済額(執行率)	予算現額	支出済額(執行率)
特別会計	27,783,633	10,827,617(39.0)	27,783,633	10,277,279(37.0)
国民健康保険事業勘定	12,174,882	4,647,854(38.2)	12,174,882	4,576,490(37.6)
土地取得	118,020	31,668(26.8)	118,020	31,668(26.8)
部落有財産	180	0(0.0)	180	0(0.0)
介護保険	12,653,730	5,094,401(40.3)	12,653,730	4,734,189(37.4)
後期高齢者医療	2,836,821	1,053,694(37.1)	2,836,821	934,932(33.0)

表3 公営企業会計の執行状況

(単位:千円、%)

会計名	収入		支出	
	予算現額	収入済額(執行率)	予算現額	支出済額(執行率)
水道事業会計				
収益的収支	2,271,911	1,103,446(48.6)	2,322,242	982,392(42.3)
資本的収支	526,261	0(0.0)	1,206,935	292,955(24.3)
下水道事業会計				
収益的収支	3,050,736	1,149,619(37.7)	3,007,269	1,418,964(47.2)
資本的収支	2,073,178	21,189(1.0)	3,109,940	959,566(30.9)

表4 基金・市債の状況

(単位:千円)

種類	金額	主な使い道
基金	16,894,250	
財政調整基金	2,679,580	財源不足への対応
普通建設事業基金	1,268,943	一般建設事業
減債基金	3,466,602	借金の返済
その他特定目的基金	9,301,539	公共施設維持改修基金など
水道事業基金	177,586	用地取得・施設整備など
市債	47,804,539	
臨時財政対策債等	14,681,148	財源不足への対応など
通常の建設地方債	10,373,502	公共事業等債など
水道事業債	3,974,552	建設改良事業費
下水道事業債	18,775,337	建設改良事業費など

※令和6年9月30日現在の人口は98,208人、世帯数は47,629世帯です。

基金・市債・財産の状況

市の貯金である基金、市の借金である市債の状況は表4のとおりです。市民1人当たりの基金の額は17万2025円、市債の額は48万6768円です。なお、一時的な現金の不足には、一般会計と各特別会計の会計相互間での現金運用や財政調整基金などからの一時的な借り入れで対応しています。また、市の財産(土地・建物)は、土地が513万7383㎡、建物が25万7837㎡となっています。

公表

令和6年度上半期
財政事情の公表

今年4月から9月までの予算の執行状況と、9月30日現在の基金・市債・財産(土地・建物)の状況についてお知らせします。

閏財政課

一般会計・特別会計と公営企業会計の状況

令和6年度一般会計予算は433億7640万5千円(繰越予算を含む)でスタートしましたが、11億3086万3千円を増額補正し、445億726万8千円になりました。

予算現額に対する執行状況は表1のとおりです。市民1人当たりの市税負担額(調定額)は11万1268円、1世帯当たりでは22万9429円です。

また、令和6年度は一般会計と分けて経理する必要のある5つの特別会計と、公営企業として水道・下水道事業会計を設けています。これらの執行状況は表2、表3のとおりです。

●特別会計の決算

(単位:千円)

会計名	歳入	歳出
特別会計	25,941,698	25,859,998
国民健康保険事業勘定	12,190,553	12,189,517
土地取得	88,339	88,339
部落有財産	29	29
介護保険	11,030,573	11,026,595
後期高齢者医療	2,632,204	2,555,518

●公営企業会計の決算

(単位:千円)

会計名	収入	支出
水道事業会計		
収益的収支	2,408,862	2,300,538
資本的収支	745,312	1,705,125
下水道事業会計		
収益的収支	3,164,207	3,032,063
資本的収支	1,310,669	2,393,319

※資本的収支の不足額は損益勘定留保資金などの補てん財源で補てんしました。

●健全化判断比率

指標	河内長野市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率※1	(赤字なし)	12.27%	20.00%
連結実質赤字比率※2	(赤字なし)	17.27%	30.00%
実質公債費比率※3	2.2%	25.0%	35.0%
将来負担比率※4	(将来負担なし)	350.0%	—

※1 普通会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率。※2 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率。※3 借金の返済額などの大きさから資金繰りの危険度をみる比率。※4 市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率。※5 企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率。

複式簿記・発生主義会計による財務書類を作成

企業などが用いる複式簿記・発生主義会計による財務書類(右図の貸借対照表など)を作成しています。このことにより、減価償却費(資産価値の減少分)など、従来では見えにくかったコストも把握できるようになり、財政の透明性を高めています。

●貸借対照表(バランスシート)

(令和6年3月31日現在・一般会計)

貸借対照表は、どのような資産を保有しているか、その資産がどのような財源で賄われているかを示した表です。※下記()内は前年度比較。

■資産	1,459億9千万円 (+10億3千万円)	■負債	304億5千万円 (△13億6千万円)
市が保有している土地や建物、債務返済の財源などの総額		将来の世代が負担する借入金(市債)などで、返済が必要な債務の総額	
公共資産	1,304億3千万円 (+1億8千万円)	■純資産	1,155億4千万円 (+23億9千万円)
道路、公園、学校など		現在までの世代がすでに負担し、将来の世代が返済する必要のない正味価値の総額	
投資など	121億1千万円 (+5億3千万円)		
基金、積立金、出資金など			
流動資産	34億5千万円 (+3億2千万円)		
現金・預金、未収金など			
合計	1,459億9千万円 (+10億3千万円)	合計	1,459億9千万円 (+10億3千万円)

持続可能な財政基盤の確立に向けて

今後、人口減少などによる市税の減収が予想される一方で、高齢化などによる社会保障関係経費の増加、公共施設の老朽化対策関係経費の増加が見込まれています。厳しい財政状況の中、施策・事業の選択と集中を行い、持続可能な財政基盤の確立が必要です。

そのため、来年度から「稼ぐ力の強化」に取り組み、それにより生み出した財源を最大限活用し、あわせて「まちの好循環」による税収入の底上げも実現すること、市の発展に向けたまちづくりを展開し、「削減可能性自治体からの脱却」を実現していきます。

なお、財政が健全に運営されているかの指標を表す財政健全化判断比率(下表)では、いずれの指標も早期健全化基準を下回っています。

●資金不足比率※5

公営企業会計	河内長野市	経営健全化基準
水道事業会計	(資金不足なし)	20.0%
下水道事業会計	(資金不足なし)	

比率が生じない場合は「—」で表示